

第 2 期京都府教育振興プラン（仮称）（中間案） に対する主な意見

【パブリックコメントの実施】

- 募集期間：令和 2 年 12 月 18 日（金）から令和 3 年 1 月 12 日（火）まで
- 意見提出：40 人 93 案件
- 主な意見：以下のとおり

<全体>

- 「教育環境日本一」というフレーズに心強さを感じた。ひとつひとつの取組も大切であるが、その先にある「教育環境日本一」を是非実現してほしい。
- あらゆる分野について網羅的に記述されているため全体像が掴みづらいが、「教育環境日本一プロジェクト」を打ち出したことで、どこに注力していくのかがよく分かる。
- 推進方策と「教育環境日本一プロジェクト」に掲げられている重点事項との相関がわかりにくい。そもそも「教育環境日本一プロジェクト」とは何かの記述が必要ではないか。
- 自分を認めることや相手を認めること、人とのつながりなどは、どの時代でも大切なことであり、すべての子どもの個性が活かされる教育を進めていただきたい。

<各推進方策>

- 推進方策 1「質の高い学力の育成」というタイトルでは、学力が高い子どもだけを育成するように見え、京都府が目指す「多様な子どもたち一人一人を大切にした教育」と言えないのではないか。
- コロナや災害など先が読めない社会が続くが、次代を築く子どもたちの学びをとめないでいただきたい。
- I C T の導入など教育活動がめまぐるしく変化していく中、現場の教員がそれについていけているのか心配である。
- 性の多様性について、世間では L G B T などと言われるが、是非一人一人の子どもの多様性に配慮した教育を実践していただきたい。
- 人生 100 年時代と言われる中で生涯を通して体を動かしたり、学ぶことができる環境があることは大事なことであり、そのような環境づくりに取り組んでいただきたい。
- 文化財などが、時代に取り残されることのないよう、過去から積み重ねてきたものにもしっかりと目を向け、取り組んでいただきたい。
- 目標指標について、学力を高める目標がないことに不満を感じており、教育環境日本一を掲げるなら学力についての目標を加えてほしい。